

2009年1月20日

富士重工業の「水平対向ディーゼルエンジン」が 第6回新機械振興賞「機械振興協会会長賞」を受賞

富士重工業は、財団法人機械振興協会主催の第6回新機械振興賞において、「水平対向ディーゼルエンジンの開発」で「機械振興協会会長賞」を受賞し、昨日、表彰式が行なわれました。

新機械振興賞は、機械工業に係る優秀な研究開発およびその成果の実用化によって、機械工業技術の進歩・発展に著しく寄与したと認められる企業・大学・研究機関および研究開発担当者表彰するもので、富士重工業は初めての受賞となります。

今回受賞した水平対向ディーゼルエンジン「スバルボクサーディーゼル」は、量産乗用車で世界初となる水平対向レイアウトのディーゼルエンジンです。水平対向レイアウト本来のメリットである高剛性、低振動という特性を生かして、 balanサーシャフトを必要とせず、かつ同排気量のスバル水平対向ガソリンエンジン並みのコンパクトな設計を実現しています。このエンジンは、欧州 2.0 クラス AWD (All Wheel Drive) 乗用車トップレベルの環境性能と、最高出力 110kW、最大トルク 350Nm の優れた動力性能を両立しており、2008 年春から欧州自動車市場で販売を開始し好評を博しています。

富士重工業は、水平対向エンジンやシンメトリカル AWD など独自のコア技術を生かして、「快適・信頼の新しい走り」と地球環境の融合」を高次元で実現することを目指しています。今後も、水平対向ディーゼルエンジンのような富士重工業ならではの価値を提供できるよう技術開発に取り組み、機械工業技術の進歩・発展に貢献してまいります。



表彰式の様子



水平対向ディーゼルエンジン